

さっぽろ生き物さがし2024

★ さっぽろ生き物さがし2024について

札幌市では、毎年春から秋にかけて、市内の自然環境の状況を把握するために、指標となる生き物を市民みんなで調べる「一斉調査」を実施しています（2015年度から継続実施）。昨年度は春の生き物の調査のため4月下旬から実施していましたが、今年度は基本となる5月から9月までの調査を開催することができました。昨年度を上回る多くのお申込みをいただき、今年の対象グループである右図の6つのなかまを中心に調査ができました。

● 今回の調査対象の生き物たち ●

チョウのなかま

マルハナバチのなかま

トンボのなかま

カラのなかま

クワガタのなかま

木の実に



★ 調査結果の概要について

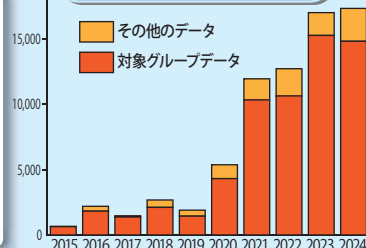
参加申し込みは**941チーム**、最終的に**343チーム**、約**1,750名**もの方から結果報告があり、過去最多の**17,355件**（対象種14,820件）のデータが得られました。

調査した地区数は**398地区**となり、市内の33%の地区を調査することができました。

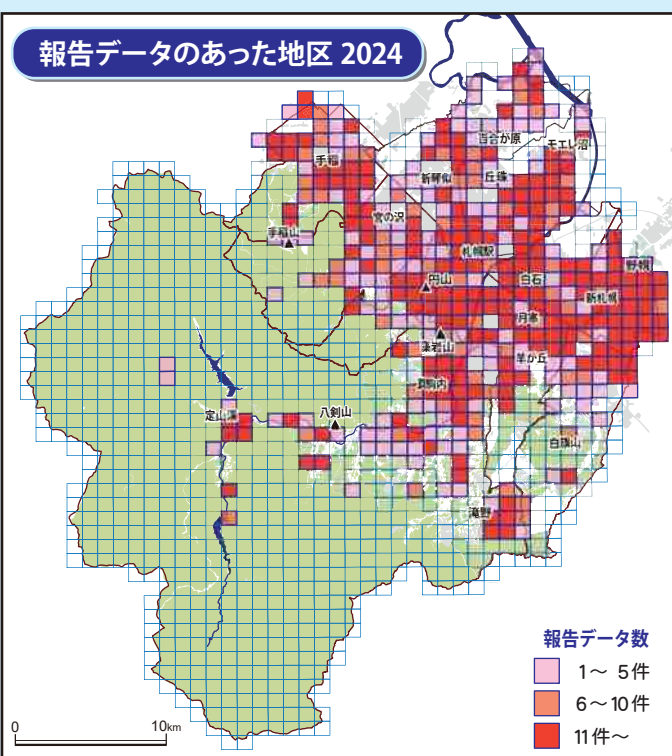
今回の調査の概要

- 調査期間 2024年5月18日～9月30日
- 対象範囲 札幌市内（1キロメッシュ数 1,192）
- 報告者数 343チーム（申し込み 941チーム）
- 調査報告数 データ数 17,355件
- 調査地区数（1キロ四方単位） 398地区（市内の33%）

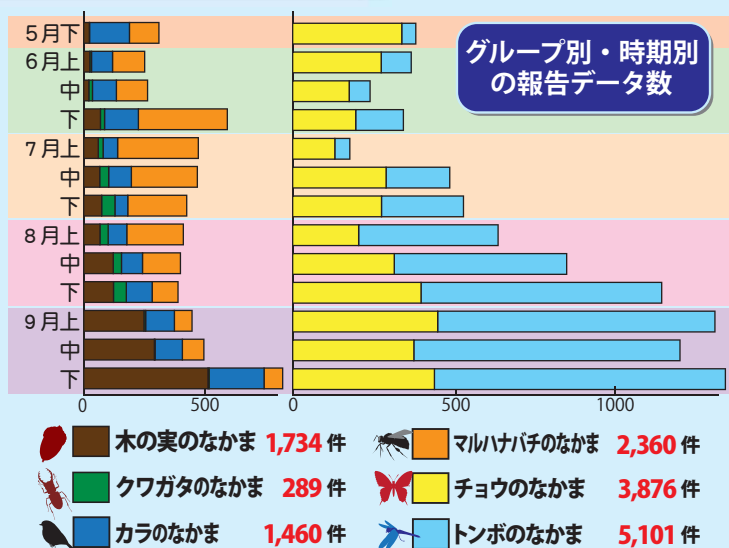
報告データ数の推移



報告データのあった地区 2024



グループ別・時期別の報告データ数



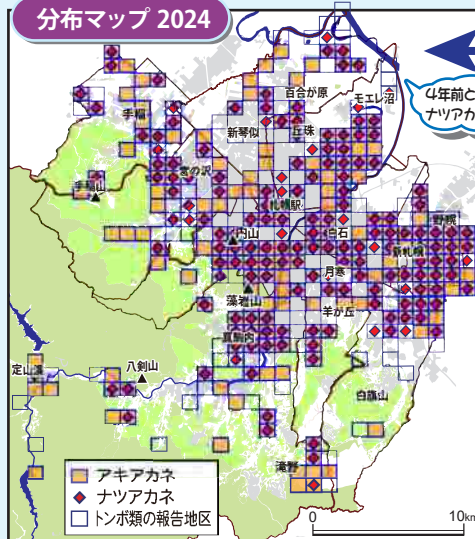
今回もっとも多くの報告があったのはトンボのなかま、次いでチョウのなかまでした。

季節別に見ると、トンボは8月中旬以降、木の実は9月に多くの報告がありました。クワガタのなかまは7月と8月に報告が集中していました。

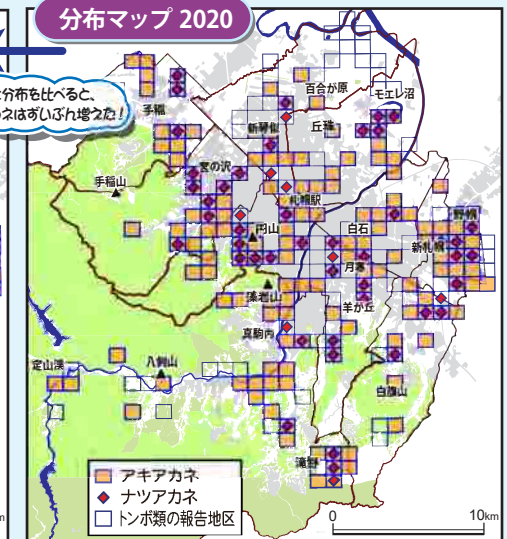
トンボのなかま

種名	地区数	データ数
・アキアカネ	225地区	1,381
・ノシメトンボ	214地区	1,285
・ナツアカネ	179地区	927
・マユタテアカネ	53地区	138
・ミヤマアカネ	29地区	84
・シオカラトンボ	90地区	256
・シオヤトンボ	26地区	67
・ヨツボシトンボ	16地区	25
・オニヤンマ	51地区	139
・コオニヤンマ	8地区	31
・オオルリボシヤンマ	38地区	81
・ルリボシヤンマ	21地区	43
・ニホンカワトンボ	20地区	52
・オツネトンボ	33地区	49
・アオイトトンボ	28地区	65
・エゾイトトンボ	24地区	44

分布マップ 2024



分布マップ 2020

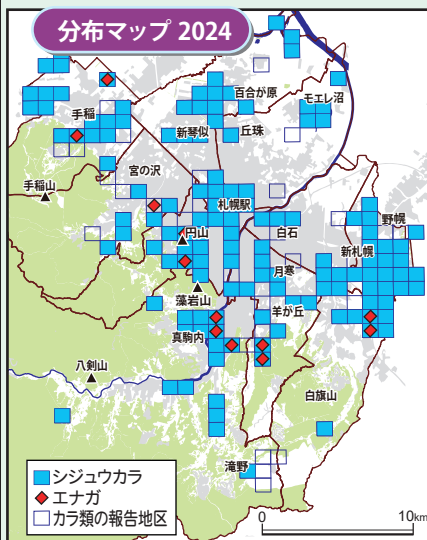


アキアカネとナツアカネは市内全体で確認されています。最近ではナツアカネの確認地区が徐々に増えつづけており（確認率は2020年24%⇒2024年58%）、アキアカネに迫ってきています。市街地での確認が増えていて、ヒートアイランドや気候変動の影響も考えられます。今回は同じトンボ科の赤とんぼで、南方系であるショウジョウトンボの報告も多くいただいています（13地区）。



カラのなかま

種名	地区数	データ数
・シジュウカラ	138地区	600
・ヤマガラ	78地区	347
・ハシブトガラ	66地区	230
・ゴジュウカラ	43地区	87
・ヒガラ	46地区	110
・メジロ	23地区	45
・(シマ) エナガ	12地区	27



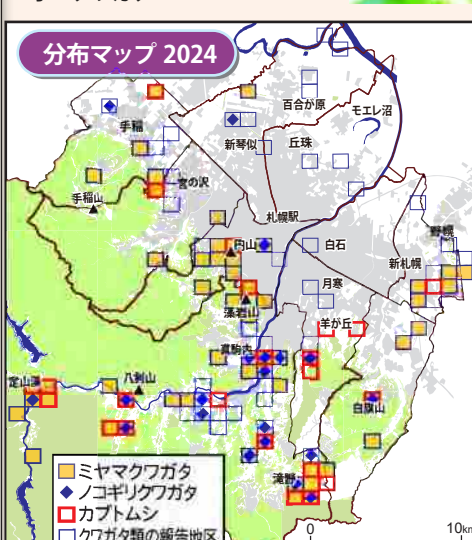
カラ類は2年連続で実施しましたが、傾向は大きくは変わりませんでした。確認地区はゴジュウカラが大きく減りましたが（40%⇒26%）、たくさん報告してくれたチームが今回少なかったためかもしれません。また2024年は猛暑のためか全体的に野鳥が少なかったと言われており、その傾向が特に出ていたのかもしれません。

冬の姿の人気の高いエナガですが、確認地区率は7%と高くなく、営巣は一部の公園に限られているようです。

クワガタのなかま

種名	地区数	データ数
・ミヤマクワガタ	57地区	88
・コクワガタ	44地区	57
・アカアシクワガタ	33地区	40
・スジクワガタ	32地区	48
・ノコギリクワガタ	20地区	21
・カブトムシ	25地区	31
・オニクワガタ	2地区	2

カブトムシ



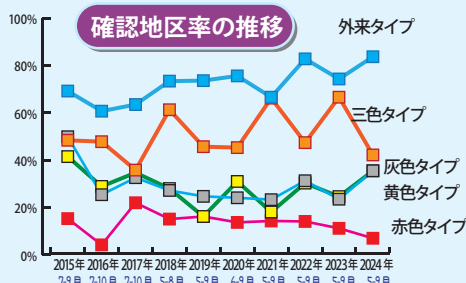
もっとも多いのはミヤマクワガタで、山地から山麓を中心に57地区で確認されました。同じく大型種であるノコギリクワガタは20地区と確認が少ないですが、ほとんどが山地の川沿いのヤナギ林で確認されていると思われます。

国内移入種であるカブトムシは25地区で確認され、前回2020年の7地区から大幅に増えました。特に山地での確認が多く、札幌市内でも広く定着してきていることがうかがえます。

マルハナバチのなかま

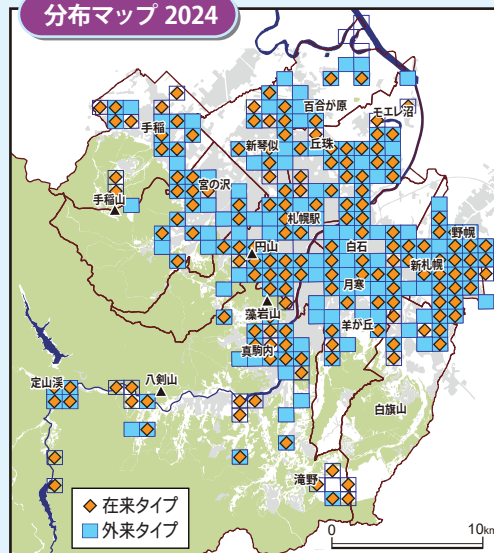
種名	地区数	データ数
・外来タイプ	203地区	1,565
・三色タイプ	182地区	1,176
・灰色タイプ	63地区	367
・黄色タイプ	66地区	203
・赤色タイプ	29地区	76

2024年は、理由は不明ですが全道的にマルハナバチが少なく、生き物さがしの参加者からもマルハナバチを見ないという声が聞かれました。特に、本来もっとも個体数が多いエゾオオマルハナバチ（三色タイプ）の少なさが目立ちました。今回の確認地区率は42%で前回66%から大幅に減っています。在来種では灰色タ



イプが健闘していて、庭先や川沿いの草地などで見かけた方も多いと思います。外来タイプ（セイヨオオマルハナバチ）も、例年より確認数は少なめでしたが、確認地区率は83%とこれまでで最も多く、在来種よりしぶとさを見せました。

分布マップ 2024



チョウのなかま

種名	地区数	データ数
・モンキチョウ	227地区	1,057
・ベニシジミ	153地区	570
・クジャクチョウ	82地区	161
・コムラサキ	41地区	56
・キアゲハ	186地区	534
・アゲハ	87地区	167
・カラスアゲハ	2地区	2
・ミヤマカラスアゲハ	36地区	43
・カラスアゲハ類	68地区	116
・モンシロチョウ	93地区	230
・エゾシロチョウ	91地区	172
・スズグロシロチョウ	51地区	112
・ミドリヒョウモン	34地区	90

コムラサキ



アゲハ



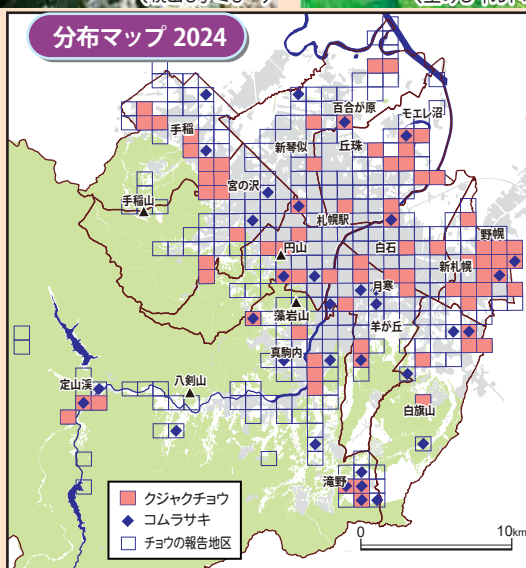
エゾシロチョウ



キアゲハ



分布マップ 2024



チョウのなかまは2021年から毎年対象としていますが、前回に比べてベニシジミ・アゲハ類などの確認が増加しました。

クジャクチョウとコムラサキは、モンキチョウなどよりも確認地区は少ないですが、市街地周辺にも多く生息しています。クジャクチョウはイラクサ類、コムラサキはヤナギ類と、いずれの幼虫も水辺の植物を食草としていますが、市街地を流れる河川の周辺にそうした環境が残されていることが読み取れます。

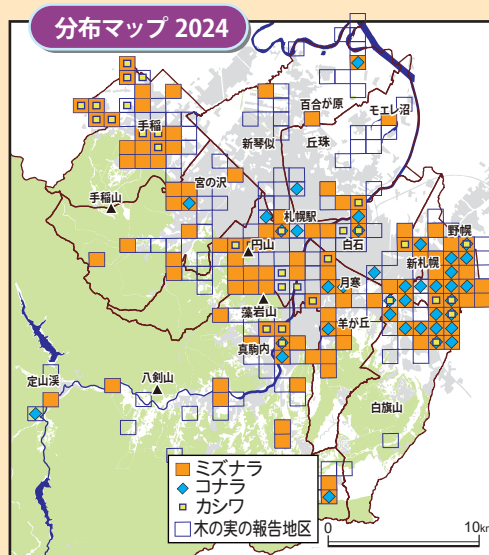
木の実のなかま

種名	地区数	データ数
・ミズナラ	123地区	397
・コナラ	38地区	87
・カシワ	32地区	64
・オニグルミ	122地区	309
・ツノハシバミ	6地区	17
・ホオノキ	57地区	143
・キタコブシ	41地区	89
・ヤマグワ	75地区	149
・カツラ	35地区	61
・ツリバナ	78地区	178

ミズナラ



分布マップ 2024



オニグルミ



ツノハシバミ



こずえを見上げて小さな木の实を探すのは少し厄介ですが、前回2020年の約1.7倍のデータが集まりました。2024年秋はミズナラなど豊作になった種類が多く、足元に落ちているドングリに気付くことも多かったのではないかと思います。

ミズナラ・コナラ・カシワはいずれもドングリがなる木ですが、ミズナラが市内全域に分布するのに対し、カシワは主に西部の山際に、コナラは東部の丘陵地にかたよって分布しています。これらの分布は、火山の噴火や海水面の変動など、過去の地史的な変遷の影響によると考えられています。

★ 参加チームのランキング発表！

報告数（今回対象のグループ）ランキング

※new は初参加チーム

チーム名	報告 データ数	報告 地区数	参加 人数	チーム名	報告 データ数	報告 地区数	参加 人数
1 AF 発見隊	1,615	15	2	11 生き物大好き	278	13	3
2 熊介チーム	1,370	65	2	12 さゆっち	256	14	4
3 テト	1,208	86	3	13 海ち 2024 ^{new}	247	4	3
4 チームカーブ	1,171	60	4	14 あまちゃん	211	27	1
5 オニヤンマさん	1,140	91	4	15 お！はら調べ隊	196	28	3
6 星のワイルドガーデン ^{new}	864	22	2	16 キクイタダキ	191	11	3
7 たんけん	625	42	6	17 チーム白土家	173	27	1
8 野鳥大好き	343	26	4	18 月寒生き物調査会	160	6	2
9 ロダンのおうち	284	8	3	19 しぜん楽しみ隊	137	18	6
10 チームさんたるべつ	281	30	6	20 きょうりゅう	129	29	2

今回参加いただいたチームの報告数ランキングを発表します。上位チームには、限定グッズをお送りします。今回もたくさんの報告、写真をありがとうございました。

ペシジミ

オオトラフトンボ

ヤマグラ

(チームゆうじん)

(チームいしやま)

黄色タイプ (エゾヨマル)

(はーもにん)

★ 写真もありがとうございました！

参加者の皆さんには計10,708点もの写真をお送りいただきました。今年度は急遽写真コンテストの開催が決まり、ウェブサイトと地下歩行空間でのイベント(1/9~10開催)で投票いただきました。ここでは上位10作品を紹介します(5位までと特別賞のチームには記念品をお送りします)。

写真はトンボのなかまが最も多く、3,500点もの送付をいただきました(全ての種の判定のチェックをしています！)。

1位: エナガ 178点



(キクイタダキ)

2位: メジロ 174点



(野鳥大好き)

3位: カブトムシ 152点



(レプリアドベンチャー)

4位: オオルリボシヤンマ 134点



(熊介チーム)

5位: アオヤンマ 104点



(月寒生き物調査会)

6位: スジクワガタ・ノヨギリクワガタ・カブトムシ 96点



(チーム Mac)

7位: セイヨウオオマルハナバチ 95点



(うっしーようた)

7位: オニグルミ (エゾリス) 95点



(トクミチーム)

9位: ハシブトガラ 80点



(キクイタダキ)

10位: クジャクチョウ 71点



(星のワイルドガーデン)

★特別賞: 「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」からの特別賞

★ おわりに

2024年の「さっぽろ生き物さがし」は、2023年に続き改訂したミニ図鑑を使って調査していただきましたが、指定の6グループ以外の情報も多くいただきました。ここ数年は札幌も夏の暑さが異常なまでになっており、生き物たちにも影響を与えているようです。温暖化の影響は長期にわたって徐々に出てくるものですが、既に大きな変化が出始めているかもしれません。自然環境の変化と保全を考える材料として、皆さんが集めたデータが役に立つのではと期待しています。

今後も札幌市では、対象グループを変えたり手法を改善したりしながら調査をつづける予定ですので、ぜひご参加していただければと思います。

X(旧Twitter)でも
情報発信しているのぞ
フォローしてほしいよー!!



カッコー先生の
X(旧Twitter)はこちら!



札幌市の生物多様性
PRキャラクター
「カッコー先生」

○さっぽろ生き物さがし事務局 (さっぽろ自然調査館内)

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階
電話 011 (892) 5306 ファクス 011 (892) 5318 (担当: 渡辺・丹羽)

電子メール sapporo-ikimono@cho.co.jp

ウェブサイト <http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/chosa/06chosa.html>

○主催 札幌市環境局環境共生担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階
電話 011 (211) 2879 ファクス 011 (218) 5108

監修・協力・写真提供 徳田龍弘・道川富美子・神戸 崇・堀 繁久



さっぽろ市
02-202-24-2784
R6-2-1776

発行: 2025年2月